

会 議 録

会議名	第7回 宇都宮市環境基本計画ワーキングチーム会議					
開催日時	平成14年 7月11日(木) 午後7時00分～午後9時00分					
開催場所	宇都宮市役所 14D会議室					
出席者	ワーキングチームメンバー					
	小磯 順子		葛谷 理子	欠席	眞野 潤子	欠席
	大野 邦雄		森本 久子	欠席	仁平 隆史	
	手塚 賢次	欠席	三宅 徹治		平野 正人	
	斉藤 軍夫		林 常夫		児玉 博利	
	江川 靖		村上 孝子			
	事務局(福田環境企画課長, 他8名)					
公開・非公開	公開					
傍聴者	1名					
議 題	市(行政)の環境配慮指針について 地域別の環境配慮指針について 施策の大綱について					

発言者	内 容
林委員	<p>地域別配慮指針で葛谷さんの意見に関連しますが、私も大谷地区が地元で、陥没の危険がある地域で農作業も行なっています。最近では爆発などの問題も起っていて、穴を掘った後に、何か埋められているようですが、特定が難しい状況にあるとも聞いています。そういった監視員はいるのですか。</p>
事務局	<p>工業課の話では、現在もでそのような監視の体制をとっていると聞いています。</p>
林委員	<p>まずは行政の監視が大事だと思いますし、私たち地元も出来る限り協力していきたいと考えています。</p>
事務局	<p>葛谷さんの意見と関連して、地域別の配慮指針にもP9で、災害の未然防止や景観の保全と活用ということで漠としてはおりますが、大谷地区の重要性について配慮を促す内容を示しています。また、採石後の地下空間につきましては、現在、大谷石材組合の中に採石跡地対策委員会を設置して、埋め戻しの手法や材料などについて検討を行なっている状況にありまして、現時点で計画の中で文言として入れる段階ではないと考えています。</p>
林委員	<p>いま大谷地区の岩場の雑草を除去して、岩肌が見えるような景観づくりも行なっているようですね。</p>
三宅リーダー	<p>事務局から説明のあった、～現状の景観の維持を基調とした保全に配慮する、も表現は緩やかですが、比較的是っきりとした意思表示が表れているようにも思います。</p>
江川委員	<p>地域別配慮指針と少し離れるかもしれませんが、例えば公共事業で箱物をつくる時に環境アセスメントを行ないませんが、今の制度は既に計画や場所が決まってしまった段階でのアセスになっていて、環境配慮とは言っても後から付け加えるという感じがしていました。それとは逆に、はじめに環境アセスメントを行って、それからその場所につくるかどうかを判断することができるようなればよいと思います。茂原の清掃工場をつくる時も、あの場所ではなくてという前提でアセスを行っていただきますので、地元の方の話では昔はゲンジホテルもいたということですが、そのような貴重なものを守ることも出来なくなっています。</p>

事務局	<p>現在，市では新しい斎場を建設するために昨年度から検討を行っていますが，場所の選定前の段階から，どんな場所で，どんな条件で，どんな施設がふさわしいかということアンケートや広報紙等を用いて，広く市民の方に情報提供や意見を伺いながら進めており，少しずつではありますが，そのような形で取り組んでいます。</p>
仁平委員	<p>公共事業の場合ですと，例えば道路を建設する場合に，ある決定をする前に代替案を含めてどういう検討をしていくべきかという構想段階からのアクセスは出来るのだと思います。逆に民間事業で，土地を取得してそこで事業を行うとなると，事業アクセスということになってしまうのかと思います。ですから全ての場合において振り出しからというのはなかなか難しいこともあります。</p>
児玉委員	<p>現在の社会経済の発展は，環境を一定の犠牲にしてきたものですから，本当に環境を最高として考えるならば，車も電化製品もやめて，以前の話ではありませんが，江戸時代まで戻るような覚悟をしないと難しいのかと思います。今の生活のスタンダードを守った上で，環境への配慮も行っていこうということですので，ここに書かれてあることをきっちりやるだけでも相当環境に良くなることだと思います。要はみんなでしっかりやっていくことが大切だと思います。</p>
大野委員	<p>市の配慮指針や施策の方向性の中に具体的な数値目標なども書かれていますが，数値の背景として，市の目標が国や県のものとは比べてどの程度の位置付けなのか，右へ習えなのか，もっと意欲的な目標設定なのか分かればと思います。</p>
三宅リーダー	<p>協議事項2の事務局の説明で，数値目標については，クリアできたものについては更に高いところを目指していくというようなお話でしたが，その辺りは記載されるのでしょうか。</p>
事務局	<p>例えば，大気環境のところでは環境基準の達成を目指すという目標を掲げております。光化学オキシダントや粒子状物質については，現在のところは環境基準を達成しておりませんので，これにつきましては，環境基準の達成を目指すということになります。それ以外の環境基準が達成されている項目については，その状態を維持し，または数値をさらに引き下げていけるよう目指していくこととしていきたいと思います。但し具体的な数値でどこまで引き下げるという記述にはならないと思います。</p>
小磯委員	<p>現在の環境基準そのものに，小さい子供を持つ親として不安を持っています。環境ホルモンというのはこれだけだったら大丈夫ということではなく，微量であってもどんな影響が出るか分かりません。私は環境基準は人の健康を守る上</p>

<p>大野委員</p>	<p>での最低の基準であると理解していますので、環境基準を達成していればそれで良いというのは非常に不安があります。</p> <p>確かに、環境基準を達成すれば良いということでもないとは思いますが、さらに高い目標に向かっていくことも必要だと思います。また、その測定法も、例えば今のダイオキシンの測定法では瞬間的な値しか出ないと思いますので、たまたま高い、低いということになってしまいます。以前にも言いましたがクロマツ測定法によって平準化された値も把握することによって二重のチェックをしていくことも必要だと思います。</p>
<p>斉藤委員</p>	<p>先程の意見は分かりますが、本当にどうなのか、出来るのか、ということになりますと、どこかで折り合いが付かないとまとまらないと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>皆さんの中に様々なご意見があることは理解しております。環境ホルモンについては、科学的知見が統一されていないということで、国の方でも基準がまだ設定されていない状況にもあります。もちろん市のほうでは、測定を行うなどデータの蓄積はしておりますが、国民全体に統一された基準がない中で、宇都宮だけ基準をつくってしまいたいというのは少し難しいと思います。また基準を下回れば良いに越したことはありませんが、ではどこまで引き下げれば良いのかということも難しいと思いますので、そういう意味では、最低のレベルというご意見もあるとは思いますが、国の基準があるものについては、それが一定のレベルであるという認識をして、まずはそれをクリアしていくこととしていきたいと考えています。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>確かに環境に関する数値というのは、どんどん分析されてきており、厳しい方向に規定されてきていますね。</p>
<p>事務局</p>	<p>クロマツ測定につきましては、今回の計画に係る施策調査の中では該当するものはありませんでしたが、今後の調査手法に係る意見として予算的な対応が可能であるかどうか、機会を捉えて関係課に照会していきたいと考えております。</p>
<p>仁平委員</p>	<p>大気汚染などあるレベルの物質が因果関係で喘息に結びついていくということではなくて、環境ホルモンは、技術が進歩してきて次々と明らかにされてきたところもあります。今後どの様な物質が出てくるかは予測も困難ですし、どういった影響を与えるのかは、一つひとつ調べていかなければなりません。その上で、どの物質がだめでどのレベルまでなら良いのかというのが分かるまでには相当の時間が必要ですし、影響が分かった時点でつぶしていくしかありません。基本計画の中で、そういう設定をしていくのは難しいのかなと思います。</p>

事務局	<p>有害物資など環境基準で定められているものについては、生活環境に支障を及ぼす項目と、健康に被害を及ぼす健康項目というのがあります。健康項目については、ラット等を使って長期間に渡る調査によって定められたものです。また、その基準の根拠というのも、60年間人が2リットルの水を飲み続けて、それでも健康被害が及ばないという位置付けとなっています。環境ホルモンについても、現在そのようなことを踏まえながら国の機関で研究されていますので、現時点で市独自で基準を定めることは難しいと考えております。</p>
大野委員	<p>確かに、化学物質については、因果関係がはっきりしていないものが多くありますし、数値目標を定めるのは難しいかと思いますが、なるべく、疑わしきものはなるべく控えようというような、注意や運動に繋がれば良いのではないかと思います。</p>
児玉委員	<p>事業者もそういう認識はかなり高くなってきていますが、事業者の立場では、国の基準を守っているのに、市独自でそれより厳しい意見を設けるとすれば了承できないのではないかと思います。市民の立場からは、まずは問題提起をしていくことによって、そういう認識を広げていくことになるのかと思います。</p>
三宅リーダー	<p>リーディングプロジェクトに関して、仁平さんから意見を頂いていますが簡単に説明をお願いしますか。</p>
仁平委員	<p>環境基本計画が、目標を定めて、基本的な施策の方向性や指針を示していくということで、基本計画であるという限界を充分承知した上で提案をさせていただきます。例えて言いますと、環境基本計画でめざす目標というおいしいような餅を絵に描きました。次に餅をつくるためにもち米をつくる人はこういうことに配慮しましょう、もちを売る人、食べる人はこういうことに配慮していきましょうということまで出来てきたのかなと思います。そこで、今度はおいしい餅を食べるために、理想の環境像をつくるために、みんなで一緒に餅つきをしましょうということで、リーディングプロジェクトを一步進めたテーマ別の行動プロジェクトみたいなものを示していったらどうかということです。</p> <p>市の中で環境部局がリーダーシップをとって、そのテーマ別に関係部局を巻き込んでいく時に、こういったいくつかのめだしをぶつけていった方が、今後施策を展開していく上で重要なのではないかと思います。</p> <p>リーディングプロジェクトも、計画を策定して推進するというだけでなく、もっと具体的にこういった行動を進めていきたいという、ある程度の形を例示として示していくまで踏み込んでいければ良いのかなと思います。</p> <p>そのようなことを考えた理由が3点程あります。ひとつは、環境基本計画の4つの基本目標と関係するデータを重ねると、ギャップがあることに気づきました。このギャップを埋めるには、何らかの形で基本計画を一步踏み出さないと</p>

いけないのだらうと思いました。例えば基本目標1「良好で安全な環境が確保され、快適で健やかに暮らせるまち」とした時に、印刷部数に限界がある中で、全世界帯や小中学校にどうやって伝えていくのかということで、ギャップが出てきてしまいます。そういった情報を提供するためには、情報の伝え方として活動センターをつくるというようなことになるのかなと思います。

また、ごみの問題では、生ごみなど燃やす必要のないものが増えている一方で、以前に林さんの市の1/3が農地という中で、堆肥化すれば受け入れて還元できる農業基盤があります。ごみを出す側と受け入れる側を繋ぐプロジェクトというものが具体的に出来るのではないかと思います。

温暖化の問題では、CO₂排出の伸び率の最も大きいのが自動車となっていますし、逆にエネルギー効率のいい公共交通の利用は落ち込んでいるというギャップがあります。それを埋めるためには、車を制御しつつ公共交通に誘導していくというソフトの施策が必要ではないかと思います。新交通システムをつくるという話もありますが、それを行ったとしても、やるべきソフトの施策は別にあると思います。

自然環境については、宇都宮の緑というものが、自然の生態系に任せたものというよりは、どちらかというと、人間が関与することによって維持されてきた二次的なものが多くあり、誰かが管理していくことで色々な機能が成り立っています。それがこの10年間で市域で約950ha減少してきていますが、市民の意識としては周りは豊かで、自宅の身の周りに緑が欲しいという意識があります。都市の中にどうやってそういったものを創り出していくのかということがギャップを埋める一つの方法なのかなと思います。

最後に協働というのがありますが、全国暮らしの意識調査で見ますと、宇都宮市民は、便利さ暮らしやすさという項目では満足度は高くなっていますが、大気、水、静けさなど環境項目に関係するような項目は満足度が低くなっています。今回の環境基本計画に係るアンケートも、回収率が35%ということで、そもそも関心の薄い部分があるのではないかと思います。そのギャップを埋めるために、何かまとめて繋げていく一つのプロジェクトが必要ではないかと思います。

このように、一つは目標と現実にギャップがあって、それを埋めていくのが行動プロジェクトというふうに考えていくと分かりやすいのかなと思いました。

2点目としては、行動プログラムの作り方は色々あるのだと思います。

普通の場合ですと、環境に関する学習会から始めて、市民の意思啓発を図って、意識が高まってから、実際の配慮行動が進められるという流れだと思います。それとは逆に、関心が薄い中でそれを待ってからということではなく、一足飛びに始めに行動プログラムを作って、それに参加してもらって環境を理解して、意識を高めて連携のシステムを作っていくという、逆手の方法もあるのではないかと思います。

例えば、ごみを処理する施設のない東京都北区と、群馬県甘楽町が連携した「給

食生ごみを循環するプロジェクト」や、自然の原生林を生かした北海道斜里町の「知床 100 m²運動プロジェクト」など、地域の特性を持った中で、行動プロジェクトを作っていくというのが、色々な人の参加を得られやすいのではないかと思います。

宇都宮の場合ですと、田園と都市を繋いでその地域内でこのような仕組みを作っていくことが必要なのだと思います。その時に、市民が宇都宮についてどう思っているのかについて、別の調査では、宇都宮の個性や、他市に自慢できる街であるということについては否定的ですが、都会の便利さと自然の豊かさを持つという両面性については肯定的であります。この辺りに市民意識のアイデンティティがあって、田舎と都会の繋がり部分が、環境基本計画の中でより良い方向に導いていくための基盤にしていけるのではないかと思います。

3点目として、そういうプログラムをいくつか作って、協働というかジョイントワークをして行く上で、二の足を踏む要因が2つあるのかなと思います。

行政の場合では、例えば生ごみをコンポスト化するというのは環境部局ですが、そのコンポストを農業の中に受け入れて活用していくということを考えるのは農政部局ということで、環境のトータルの目標として行っていくにしても、環境部局が出来る部分と、複合して他部局の事業の中で展開してもらわなければならない部分も多くあります。そういう意味では行政の中の協働が必要なのかと思います。

また、現在、地域共同体が崩壊している中で、どんな社会活動を組み合わせていくかということで、自由意志で参加するボランティア活動や明確な目的を持っているNPOとの連携もありますし、もう一度地域共同体を別な繋がりで復活していくなど、プロジェクトに応じて、市民参加の仕組みが具体的にいくつか方向付けられたらいいと思います。

そのようなことで、5つほどのプロジェクト例として、目的や連携方法、費用負担などについて考えてみました。私は、宇都宮の地域環境に対する市民の自信の無さがあると思っています。環境基本計画の中で、宇都宮市民が何か自信を持つようなテーマや行動が出てくれば良いと思っています。

田園と市街地を結んでどんな新しいものを作り上げていくのかというところを一つ提示して、他の地域に負けないような具体的な形や意識を持つように組み立てることができればと思っています。最終的な計画書に載せられないとしても、報告書というのがあればその中で載せるなど手段はあると思いますが、策定、推進をもう一步踏み出してこんな行動プロジェクトというように示すことにより、行政内部でも後押しすることになりますし、市民にも分かりやすい話になると思います。そういうことにひとつでも繋がればいいなということで、提案させて頂きました。

三宅リーダー

計画をつくるからには、何かキラリと光るものにしたいという話も以前にありました。仁平さんのご意見の中で、事務局から提示されたテーマに繋がるもの

<p>大野委員</p>	<p>がいくつもあるなと思いながら聞いていました。</p> <p>リーディングプロジェクトについては、市、市民、事業者が一体となって進めていくことが必要ですし、いかに宇都宮らしさを発揮していくかということもあります。私の提案としては、アイドリングストップ運動をもっと大々的に行っていくことや、ポイ捨て・フン公害防止運動、公共施設や飲食店、歩行中の禁煙運動、ごみの有料化によるごみの減量、環境家計簿運動などは、市民ぐるみで取り組めるのではないかと思います。</p>
<p>児玉委員</p>	<p>事務局のリーディングプロジェクトの中では、環境教育・環境学習が比較的取り組み易いのではないかと思います。これからの将来の環境のためには、学校の中から意識付けを行っていくことが大事ではないかと思います。私自身も大量消費の時代の中で育ち、環境の大切さに気づくのが遅かったですし、学校も環境教育の重要性の認識がなかった部分もあったのではないかと思います。</p>
<p>江川委員</p>	<p>資料のP17の中で、「小中学校における環境教育の推進」というのがありますが内容的には具体性が無いという現実があります。文部科学省で心の教育や学力向上などをやりなさいとやってきても、必要な体制はそのままの状況ですので、あれもこれもやるというのは、現実的には合致してこないということがあります。例えば、環境の専門家を派遣してくれるとしても、茂原の環境学習センターには専門家がいる訳ではありませんし、そういったところにいる専門家としては、県内では真岡の根本山の自然観察センターというところに一人しかいないのではないかと考えています。資料に環境リーダー等人材育成という項目もありますが、この内容では不十分だと思いますし、宇都宮市独自でそういった人を確保できるようになればいいと思います。学校で環境教育を行うのは簡単ですが、やはり内容が大事になってくると思いますので、現場としては、なかなか難しい状況にあります。</p>
<p>村上委員</p>	<p>環境教育を行うには、総合的な学習の時間の中で取り組むのが一番適しているとは思いますが、学校単位で柱となるものを決めて重点的に取り組んでおりますので、私の学校では福祉を柱としていますので、そうしますと環境の入る隙間や時間がありません。環境リーダーの一覧表や環境学習プログラムなどの資料も送られたりしてきますが、そういったものが使える状況にないということもあります。</p>
<p>江川委員</p>	<p>総合的な学習の時間は、地域の実情に合わせて実施するということですので、近くに福祉施設があれば、福祉を中心に活動するということにもなります。</p>
<p>斉藤委員</p>	<p>資料の中で、地域住民の意識として、川の水のきれいさへの不満度が高いとい</p>

<p>仁平委員</p>	<p>う項目がありますが、私は川の水もそうですが、岸边の方も汚いと思います。また、どの地域においても、市民のマナーが一番悪いという結果になっています。先程の大野さんの意見にもありましたが、極端に言えば宇都宮市民はマナーが悪いよと言ってしまうこともあるのかなと思います。そういう意味では教育というのが必要だと思います。</p> <p>リーディングとして環境教育をやりましょうとしても、先程の学校のお話ですとなかなか受け入れられる体制に無い状況にもあるということで、ここでもギャップが生じています。そういったギャップを埋めるような具体的な行動プロジェクトをつくって、モデル的にでも動かしていけないと間が繋がっていかないのではないかと思います。</p>
<p>林委員</p>	<p>環境教育ということでは、市内の全小中学校で農業体験学習というのを行って、私も20時間ほど受け持っています。その中で、作物をつくることだけではなくて、きれいな土や水はどうやって出来るのかなど、環境に関する部分もいっしょに教えたりしています。</p>
<p>大野委員</p>	<p>現在は、企業においても環境教育を受けている人が相当増えてきており、環境カウンセラーなどの資格を持った人も増えてきています。そういった人を活用して、ボランティアとして参加してもらうなど、学校の先生がやれない部分を受け持っていくことも出来るのではないかと思います。残りの回数も少なくなりましたが、そういった具体的な議論というのももっと必要なのではないかと思います。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>先程の仁平さんの意見と切り口は違いますが、事務局のリーディングプロジェクトについては、基本的には環境部局で主体的に取り組めるものが挙げられていると思います。あえてそれを乗り越えるような中身というか視点を取り入れるような努力もしていただきたいということをおっしゃって、事務局に預けたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>先程、行政の縦割りについてのご意見がございました。例えば、今、学校の生ごみを飼料化して畜産農家へ配布するというのを始めており、これについては環境部局と農務部局が連携して取り組んでいます。また緑の部分を多くを担っているのは公園緑地課というところですが、事業や計画の実施あたっても会議に出席するなど連携を図っております。ご指摘のように庁内連携という部分があまりに縦割りで、お互いに孤立して行っているということは、基本的にはないということをご理解をお願いしたいと思います。</p> <p>また、リーディングプロジェクトにつきましても、仁平さんからこういうことが出来ればいいなということをご意見をいただきました。基本計画という中</p>

	<p>で、どの程度まで具体的に踏み込むことができるかということがあります。事務局の方では、宇都宮の環境を良くするために、どういうことに優先的に取り組んでいったらよいかということで整理をしたものです。資料的にはコンパクトにまとめてしまいましたので、内容的に詳しく分からない部分があるかと思いますが、仁平さんのご意見につきましても、盛り込めるものについては、少し整理させて頂きたいと思います。</p>
仁平委員	<p>各部局間との連携はなされているとは思いますが、最後の施策レベルにおいても共有化といいますか、もう少し環境が見えるような方向になっていけばよいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>市の方でもISO14001の取り組みを始めてからは、事業を実施するにあたって、環境を抜きにしては考えていけないという意識が、以前にも増して高くなってきております。しかしながら、最終的な取り組みの責任というものは、事業実施課にありますので、お互いの役割分担の中で連携を図っていきたいと考えております。</p>
江川委員	<p>数値目標で、自然観察会の参加者数を増やすという項目がありますが、市の方で冬に実施した時も、参加者数が少なくて苦労していました。現実的にはなかなか難しいのかなと思います。</p>
大野委員	<p>市の方で示したリーディングプロジェクトは優等生的な部分もあると思いますが、この中で、もっと宇都宮らしさというものが表せればよいと思いますし、市民をうまく活用したものをつくっていただければと思います。</p>
仁平委員	<p>環境基本計画としての限界は承知していますが、行政内部で検討にあたって、ワーキングチームではもっと市民や事業者に分かりやすい形にしてほしいという意見があるということで、押し進めるのではないかなと思います。</p>
平野委員	<p>環境基本計画を実際に進めていくときに、最初の一步が大きく踏み出せる人もいれば、小さくしか踏み出せない人もいるということで、人によって踏み出し方が違うと思います。一部の最大公約数の人だけでなく、最小公倍数の人の目線にも合わせていくということであれば、このような表現で、ある程度の汎用性を持たせることでも良いのではないかと思います。</p>
三宅リーダー	<p>本日は深い議論が出来たと思いますので、これを踏まえまして、事務局の方で整理していただきたいと思います。本日はありがとうございました。</p>